

20 歩くまち

92 京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル(くらし方、生き方)が大切にされている。

93 京都での移動には、公共交通が便利である。

94 歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。

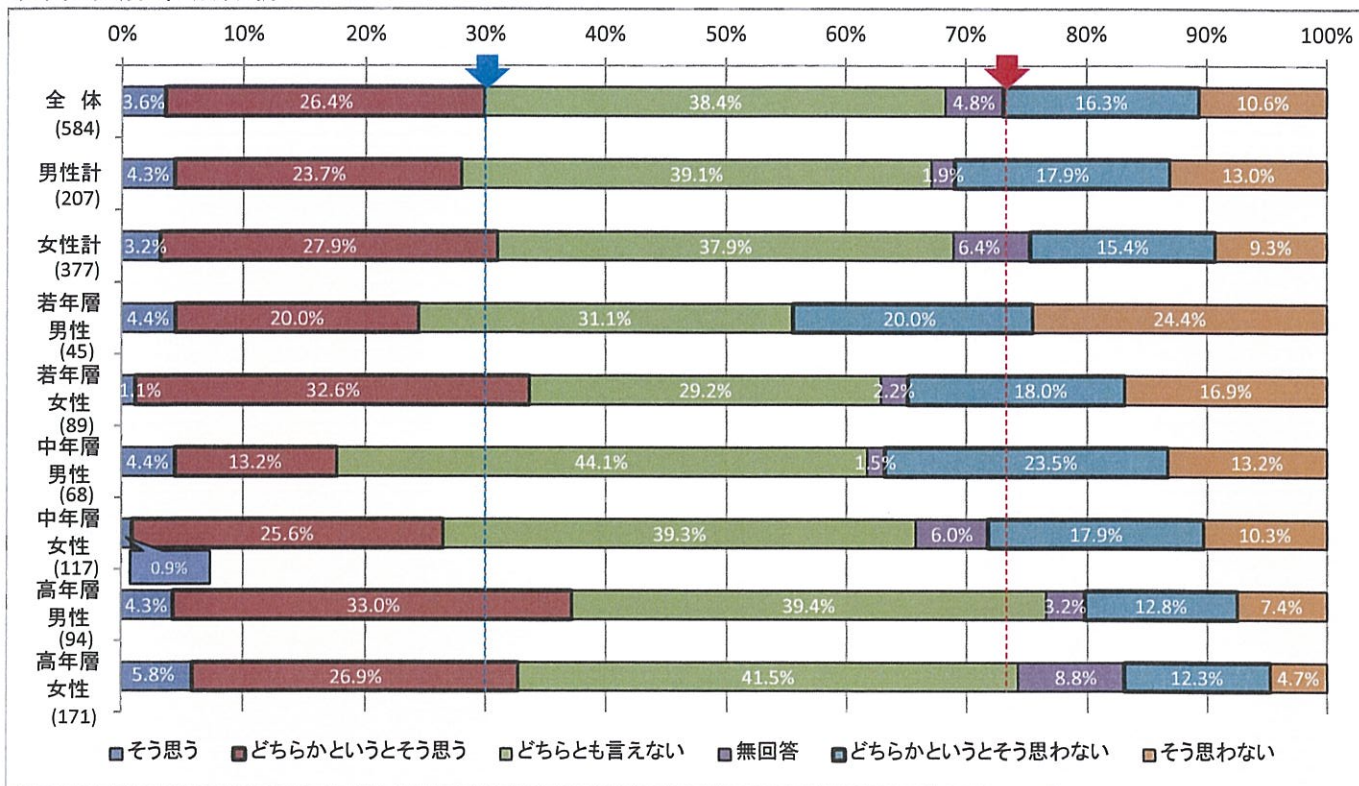
95 まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。

96 地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。

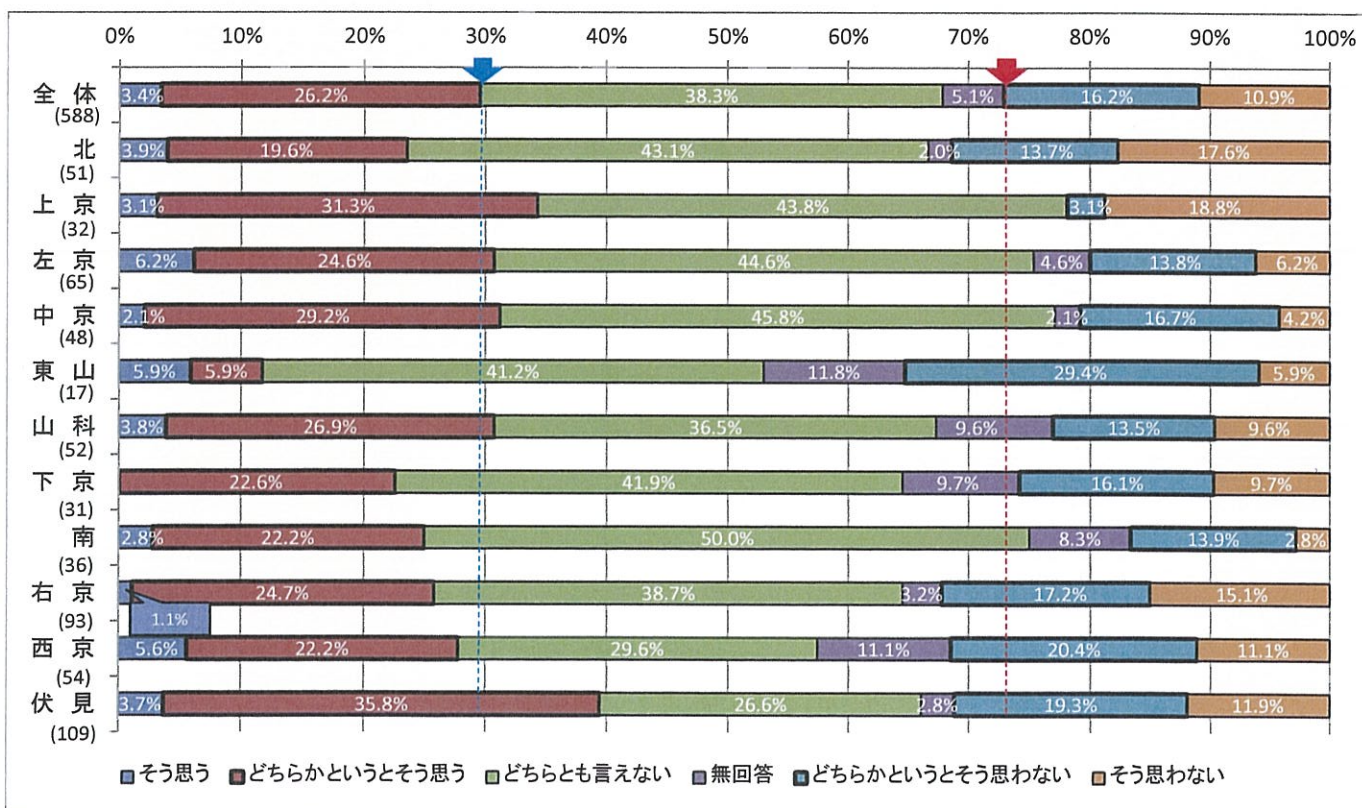
97 駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。

92 京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル(くらし方、生き方)が大切にされている。

(1) 世代別・性別分析



(2) 居住区別分析

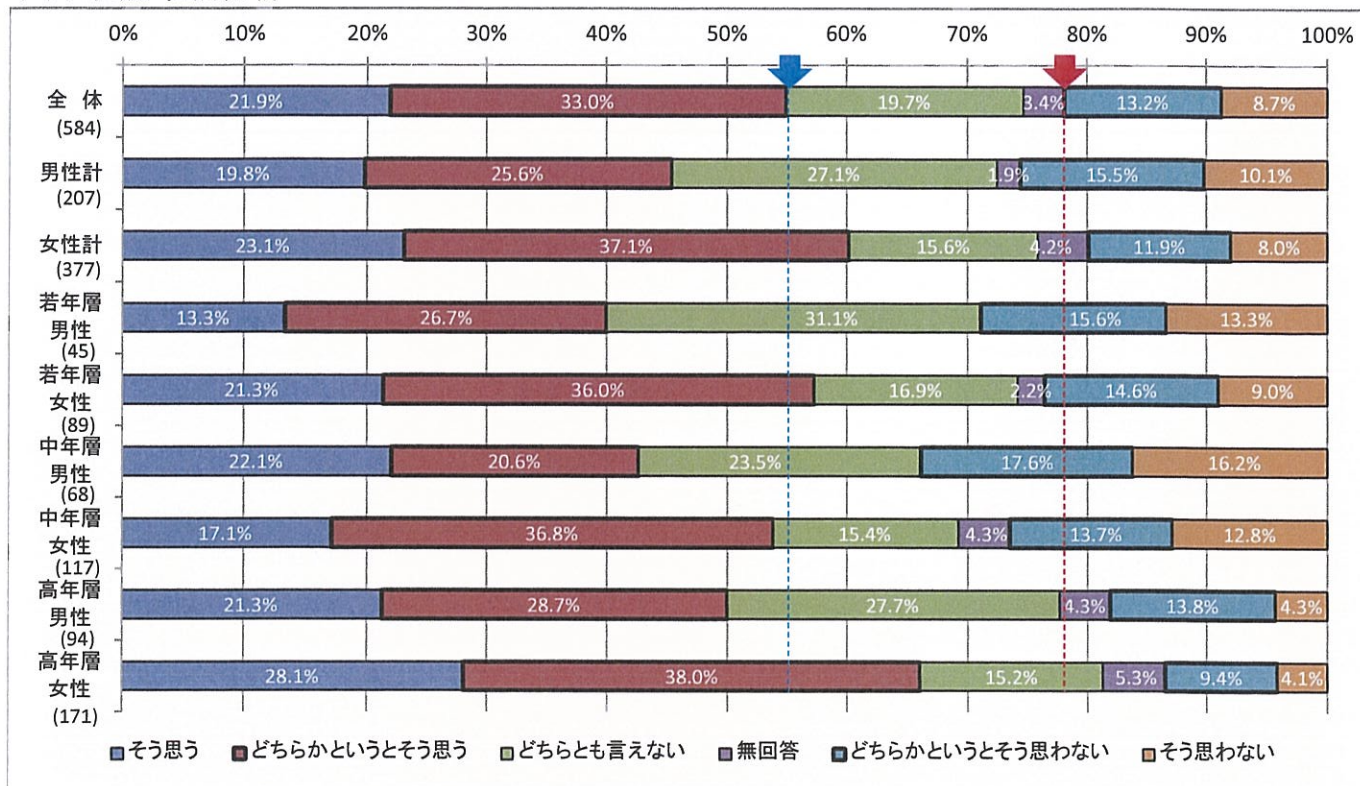


(3) コメント

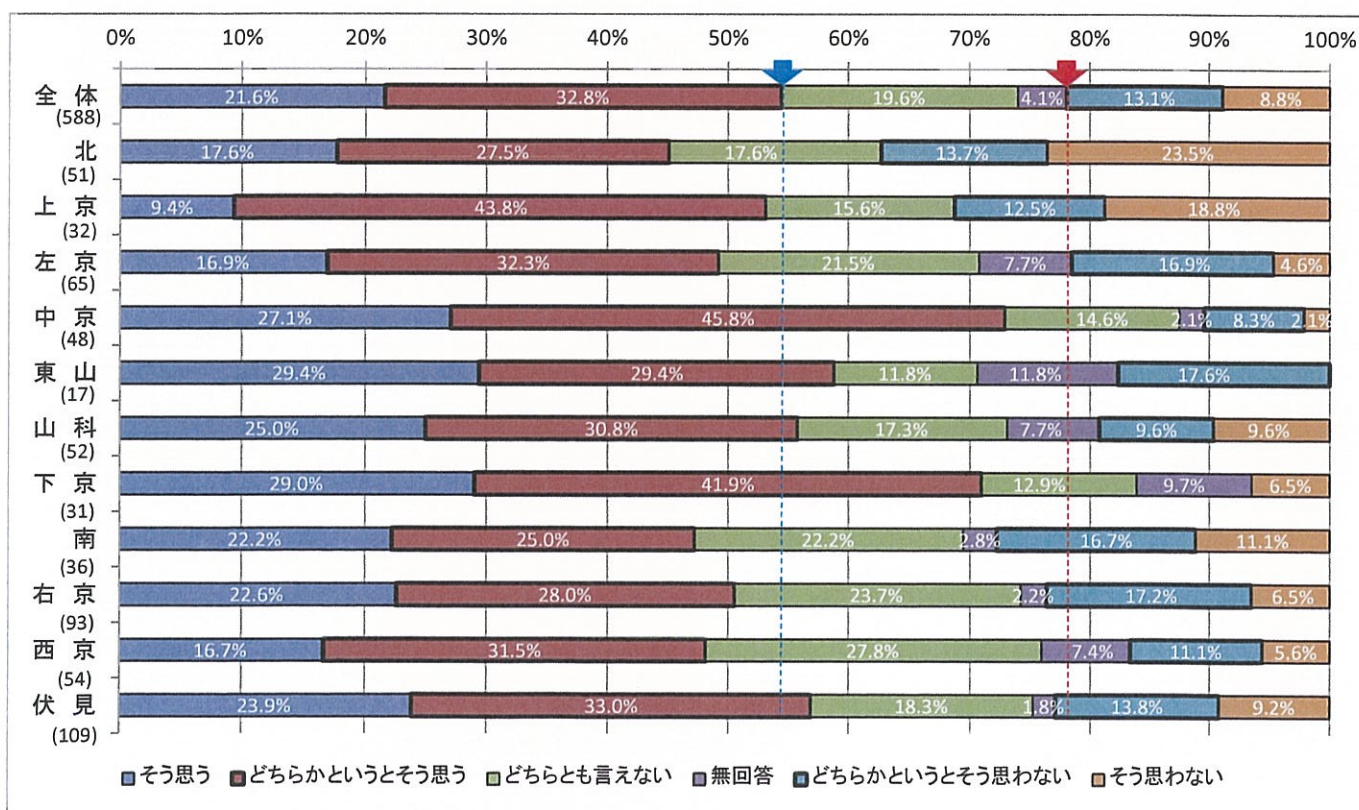
全体的には、どちらとも言えないの回答の割合が最も高かった。また、男性と女性との比較では、男性の方が否定的な回答の割合が高かった。
 世代別・性別を相対的にみると、肯定的な回答の割合は、高年層男性において高かった。一方、否定的な回答の割合は、若年層男性、中年層男性及び若年層女性において高かった。
 居住区別を相対的にみると、肯定的な回答の割合は、伏見区において高かった。一方、否定的な回答の割合は、東山区及び右京区において高かった。

93 京都での移動には、公共交通が便利である。

(1) 世代別・性別分析



(2) 居住区別分析

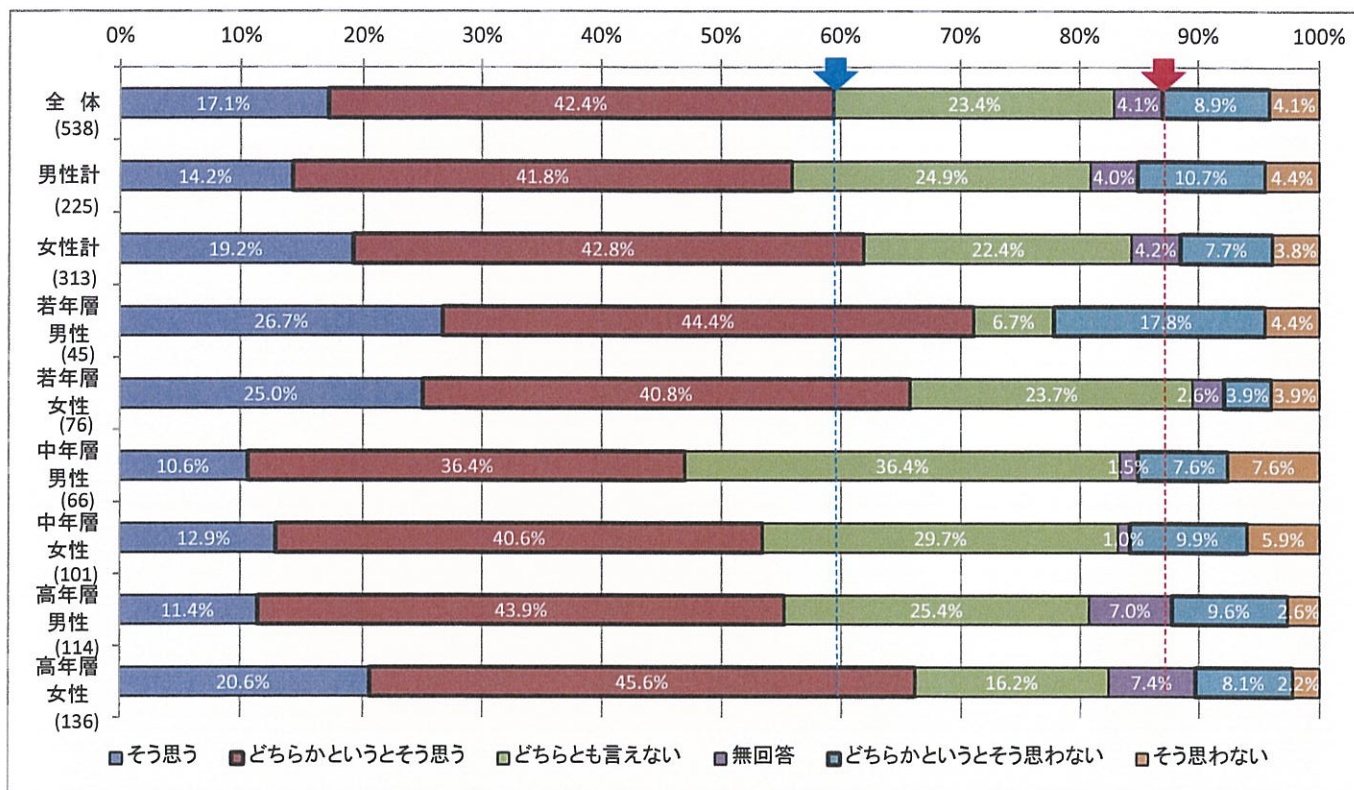


(3) コメント

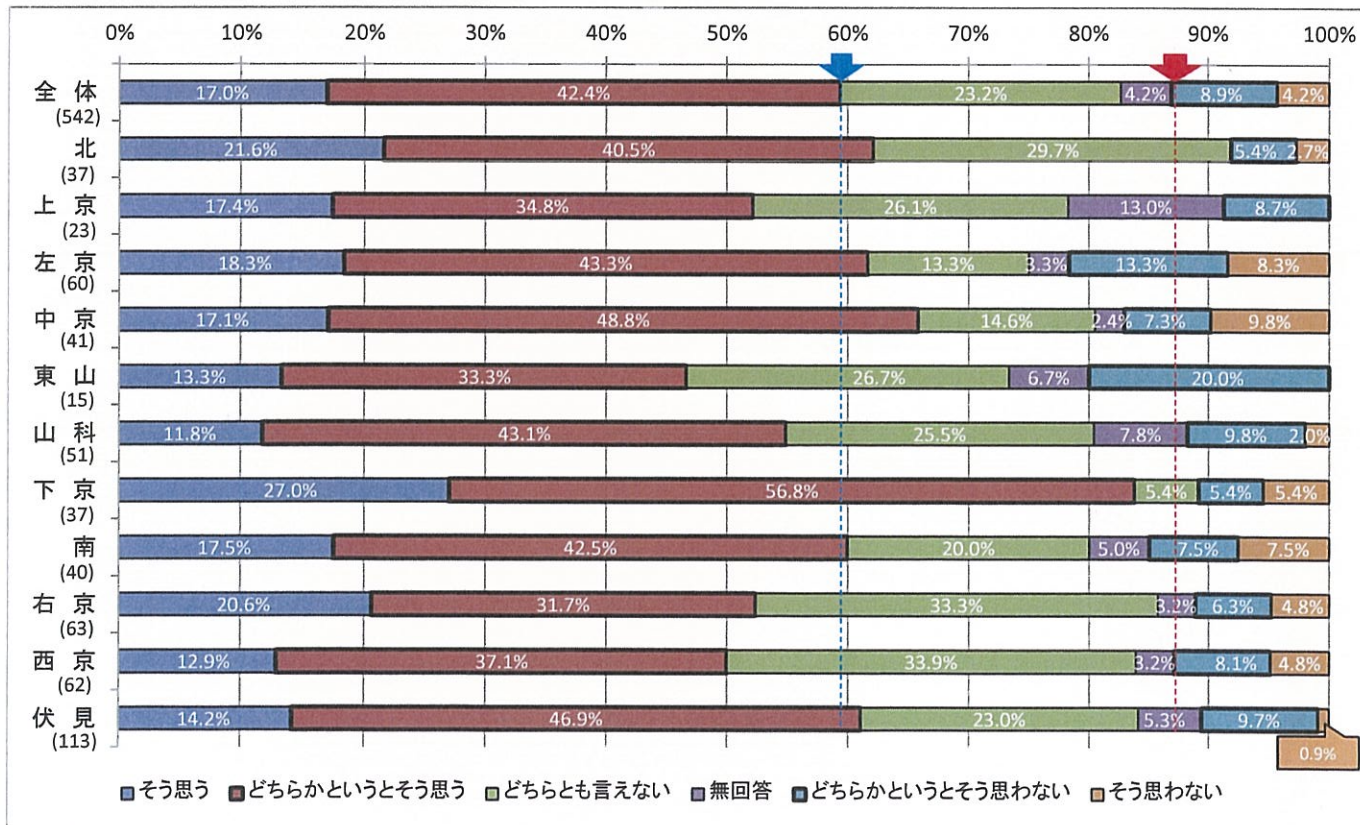
全体的には、肯定的な回答の割合が最も高かった。また、男性と女性との比較では、女性の方が肯定的な回答の割合が高く、男性の方が否定的な回答の割合が高かった。
 世代別・性別を相対的にみると、肯定的な回答の割合は、高年層女性において高かった。一方、否定的な回答の割合は、中年層男性及び若年層男性において高かった。
 居住区別を相対的にみると、肯定的な回答の割合は、中京区及び下京区において高かった。一方、否定的な回答の割合は、北区、上京区及び南区において高かった。

94 歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。

(1) 世代別・性別分析



(2) 居住区別分析

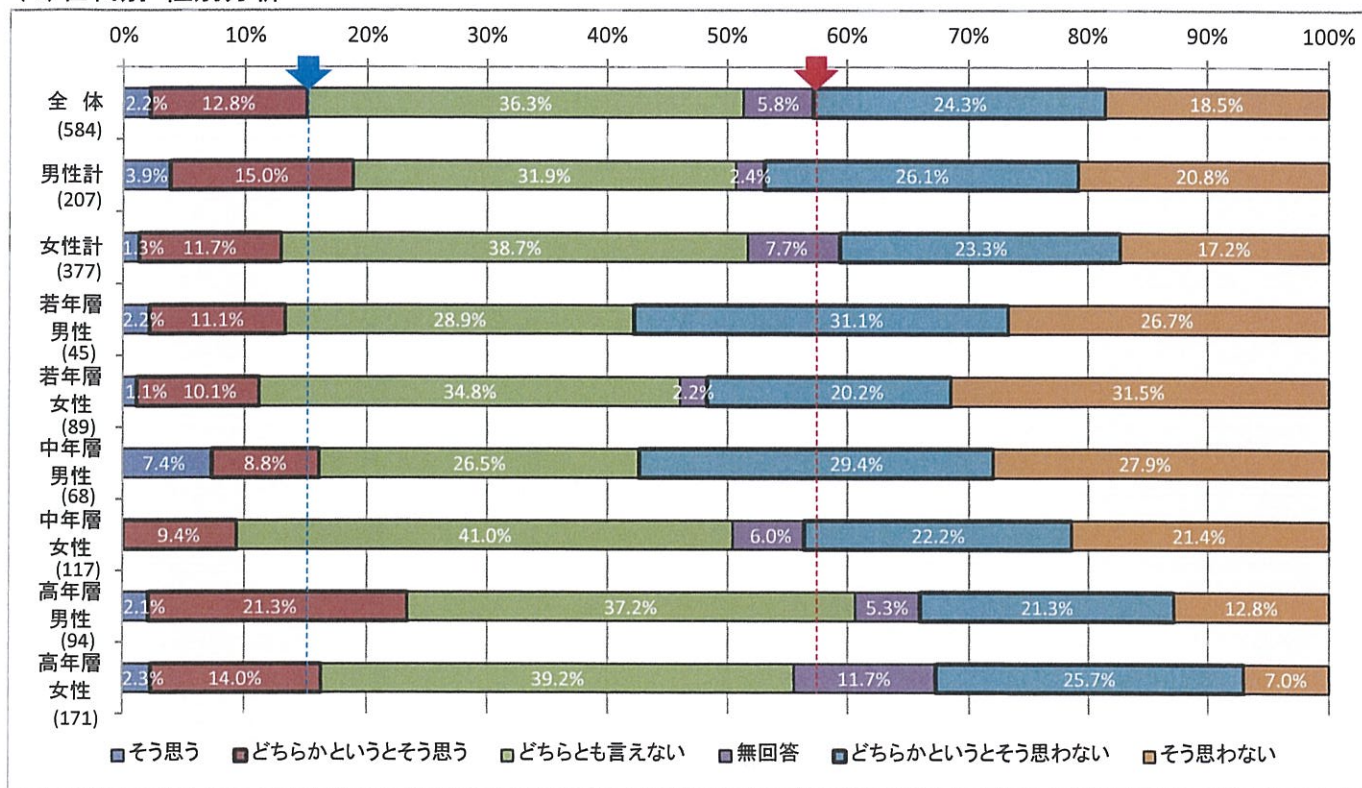


(3) コメント

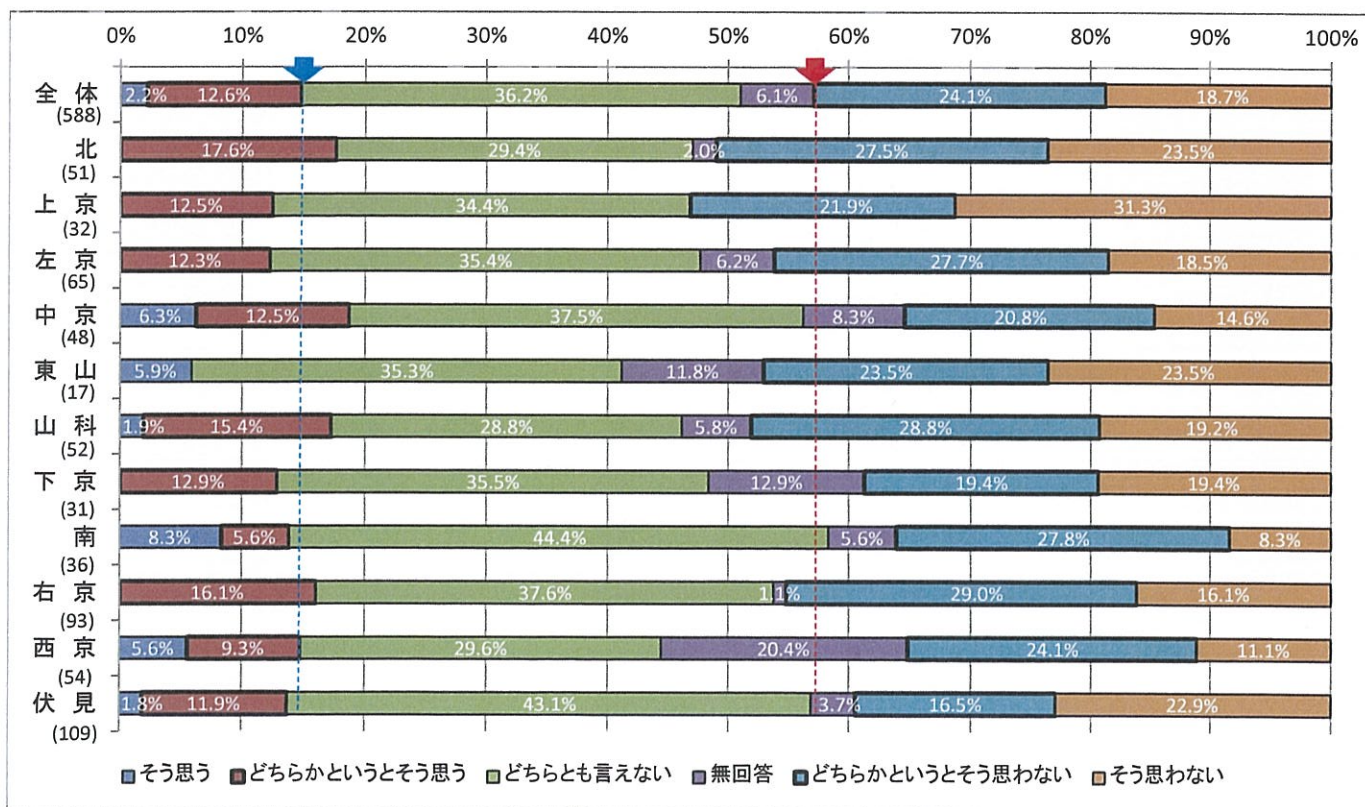
全体的には、肯定的な回答の割合が最も高かった。また、男性と女性との比較では、女性の方が肯定的な回答の割合が高かった。
 世代別・性別を相対的にみると、肯定的な回答の割合は、若年層男性、高年層女性及び若年層女性において高かった。一方、否定的な回答の割合は、若年層男性において高かった。
 居住区別を相対的にみると、肯定的な回答の割合は、下京区及び中京区において高く、中でも下京区の数値は80%を超えた。一方、否定的な回答の割合は、左京区及び東山区において高かった。

95 まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。

(1) 世代別・性別分析



(2) 居住区別分析

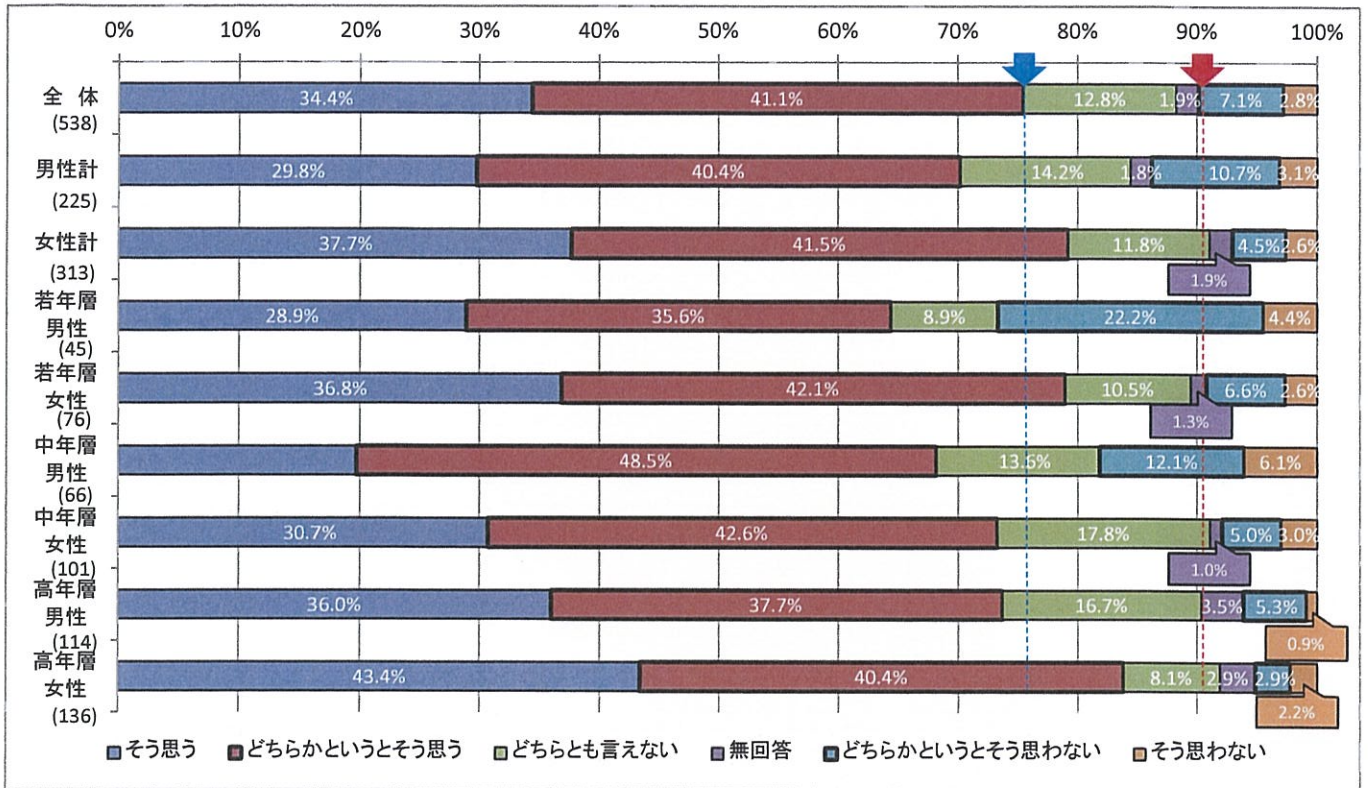


(3) コメント

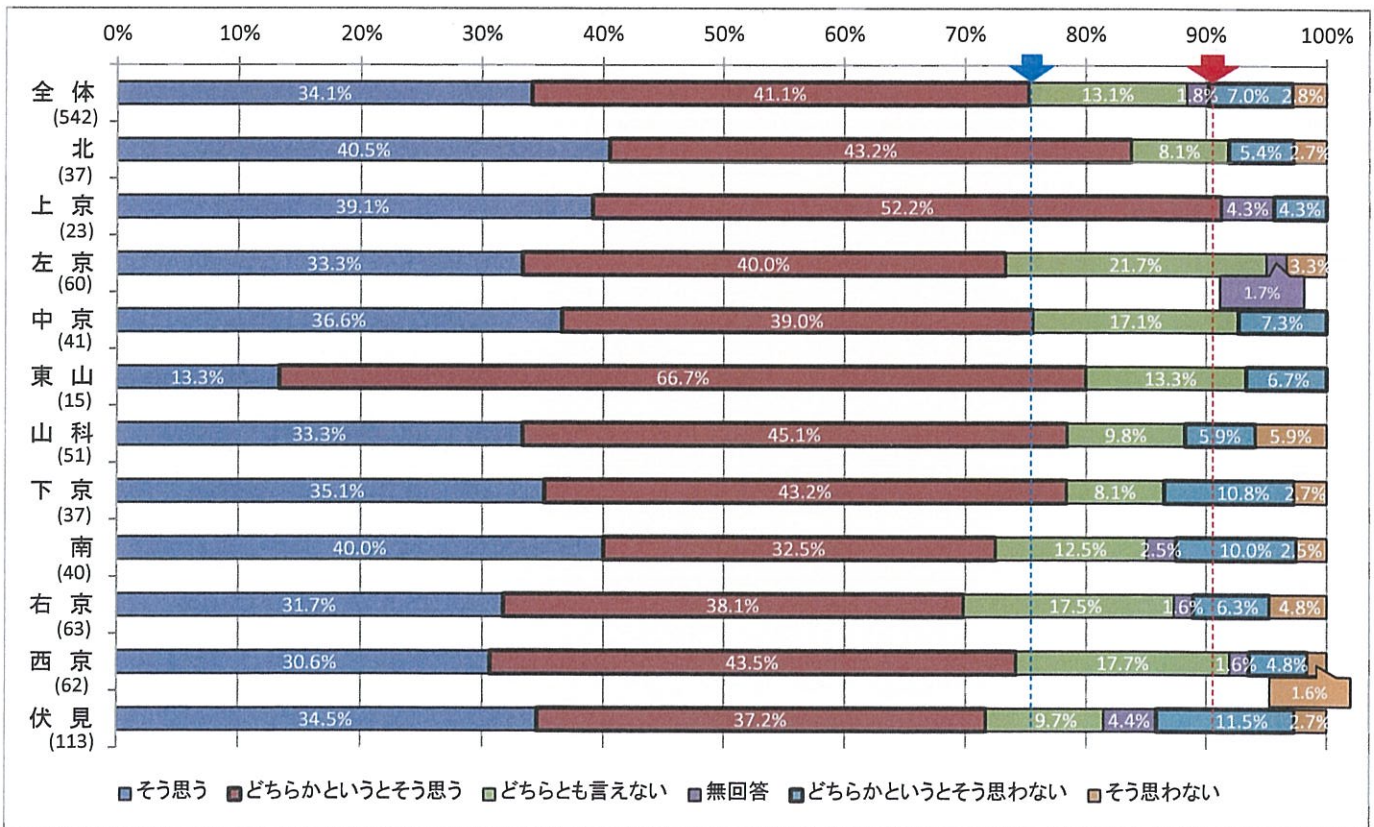
全体的には、否定的な回答の割合が最も高く、その数値は40%を超えた。また、男性と女性との比較では、男性の方が肯定的な回答の割合及び否定的な回答の割合とも高かった。
 世代別・性別を相対的にみると、肯定的な回答の割合は、高年層男性において高かった。一方、否定的な回答の割合は、若年層男性、中年層男性及び若年層女性において高く、その数値は50%を超えた。
 居住区別を相対的にみると、肯定的な回答の割合では、大きな差は見られなかった。一方、否定的な回答の割合は、上京区、北区及び山科区において高く、中でも上京区及び北区の数値は50%を超えた。

96 地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。

(1) 世代別・性別分析



(2) 居住区別分析

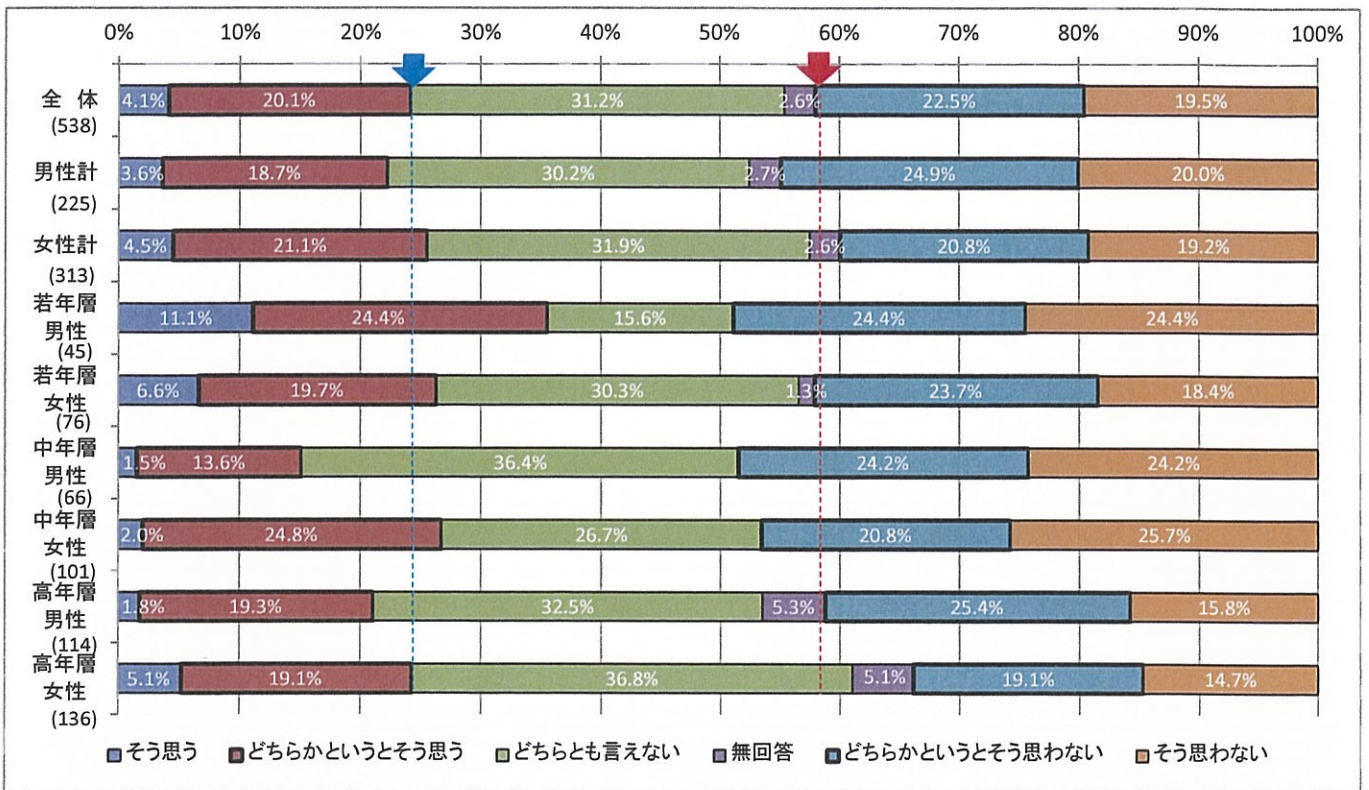


(3) コメント

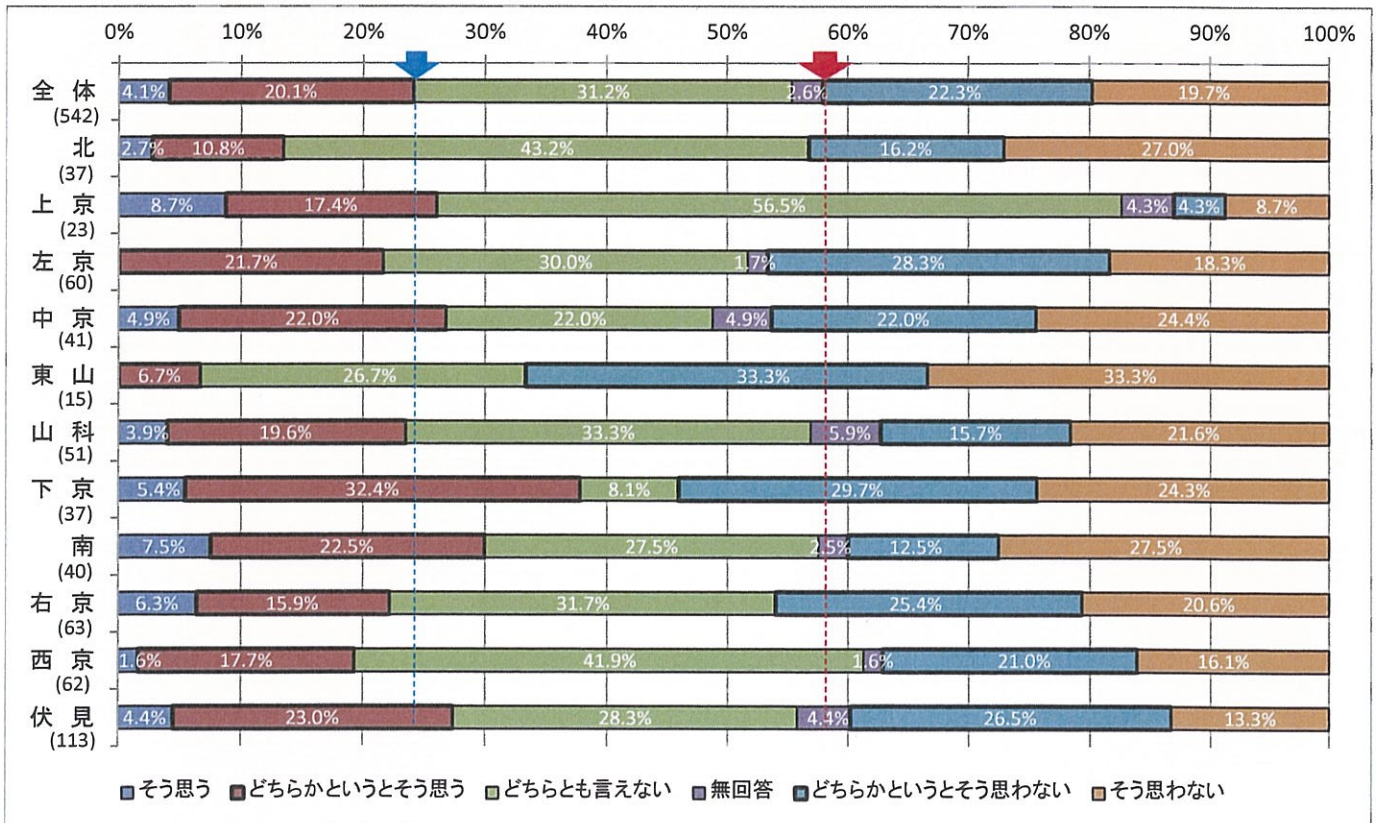
全体的には、肯定的な回答の割合が最も高く、その数値は70%を超えた。また、男性と女性との比較では、女性の方が肯定的な回答の割合が高く、男性の方が否定的な回答の割合が高かった。
 世代別・性別を相対的にみると、肯定的な回答の割合は、高年層女性において高く、その数値は80%を超えた。一方、否定的な回答の割合は、若年層男性及び中年層男性において高かった。
 居住区別を相対的にみると、肯定的な回答の割合は、上京区及び北区において高く、その数値は80%を超えた。一方、否定的な回答の割合では、大きな差は見られなかった。

97 駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。

(1) 世代別・性別分析



(2) 居住区別分析



(3) コメント

全体的には、否定的な回答の割合が最も高く、その数値は40%を超えた。また、男性と女性との比較では、大きな差は見られなかった。
 世代別・性別を相対的にみると、肯定的な回答の割合は、若年層男性において高かった。一方、否定的な回答の割合は、若年層男性及び中年層男性において高かった。
 居住区別を相対的にみると、肯定的な回答の割合は、下京区及び南区において高かった。一方、否定的な回答の割合は、東山区及び下京区において高く、その数値は50%を超えた。

